

①教育目標

平成16年4月に開設した帝塚山大学心理福祉学部は、現代社会に生きる人間を総合的に教育研究すること、とりわけ、心理学と地域福祉の立場から「人間と心」・「人間と社会」の諸問題の理解と解決に向けてアプローチすることを目的としている。また、学部を構成する心理学科と地域福祉学科は、いずれも地域住民の心と生活に密接に結びついており、現代社会における人間のケアとサポートに関する専門的職業人の養成を目指している。その具体的な取り組みとして、「地域での教育力の活性化」のために、1) 児童と保護者への自立支援活動（子育て支援、不登校支援、障がい児支援など）、2) 子どもや高齢者の体験活動の機会の提供、3) 体験学習法に基づいた対個人、対グループ援助技術による人づくりを行ってきた。また、「安心できる社会の再生と創造」のために、1) 地域での高齢者や障がい者等へのフィールド調査の実施、2) 青少年の健全育成に関わる心理療法、3) 犯罪や事故の被害者への支援に関わることのできるリーダー育成等の活動を行ってきた。

心理福祉学部各学科の教育目標は、以下の通りである。

(心理学科)

人間社会の抱える諸問題を、人間の行動と心理を中心とした科学的学問体系に基づいて研究・理解・認識するとともに、心の時代にふさわしい問題解決能力と他者への共感性を備えた人材を養成する。

(地域福祉学科)

地域に居住するすべての人が、地域社会の構成員として日常生活を営み、自らの条件に応じたあらゆる活動に参加できるよう地域社会を総合的に研究し、従来の福祉分野のみならず総合的なマネジメントを担っていける専門的職業人を養成する。

これらの教育目標を達成するために、心理学科では、学生の履修上の指針として「地域生活支援」「心理臨床支援」「企業活動支援」の3つのモデルにより、学生が自己の進路にそった履修ができるようにした。教員組織については平成23年度13名の専任教員（心理学科入学定員は開設当初は70名であったが、平成18年度から90名、平成23年度から100名）を配置している。また、地域福祉学科では学生の履修上の指針として「地域生活支援」「まちづくり支援」「地域ケア支援」の3つのモデルにより、学生が自己の進路にそった履修ができるようにした。本学科では、社会福祉士及び精神保健福祉士の受験資格を得させる教育課程を編成している。平成23年度は12名の専任教員（地域福祉学科入学定員70名）を配置している。

なお、地域福祉学科については、高校生の進学動向と入学定員の充足状況を勘案して、平成23年度から募集停止とし、平成23年5月現在2年生～4年生のみが在籍している。また、それに伴い心理福祉学部の名称は平成23年度より心理学部と改称した。

②学部の水準による評価

(1) 教育課程の編成について

本学部・学科の教育目標達成を念頭に、心理学科においては、心理学分野での深い専門知識を育むために、心理学の基本的な方法論や基礎知識を習得するための「専門基礎科目」群を設け、基礎演習、心理学概論、心理学実験実習など、必修科目12単位を含む20単位以上の履修を求めている。さらに、心理学の各論に対応する「専門基幹科目」群の知覚心理学、学習心理学、表現療法論、カウンセリング論、交通心理学、環境心理学など40科目の中から24単位以上、周辺領域としての「専門関連科目」群の児童福祉論、地域福祉論、コミュニケーション論など28科目の中から16単位以上の履修を求めている。これらを経て「専門研究科目」群のゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ・卒業研究などの必修8単位の履修を求めている。また、基本的教養を培う「教養科目」群20科目の中から12単位以上、「外国語科目」群の4種の外国語16科目の中から8単位以上、残り36単位ほどの分野からでも選択できるものとして、卒業要件単位数は124単位としている。

地域福祉学科においては、地域福祉に関する基本的な知識を修得する「専門基礎科目」(20単位以上)、地域福祉に関する専門的知識と技術を学ぶ「専門基幹科目」(24単位以上)、専門知識と技術の周辺に必要とされる「専門関連科目」(16単位以上)を学ばせることとしている。なお、地域福祉を担うために必要とされる資格である社会福祉士(受験資格)および精神保健福祉士(受験資格)については、厚生労働大臣の定める指定科目を基本にして教育課程を編成している。

教養教育に関しては、学部共通で「文化と人間」「自然と人間」「人間論」「人権論」「情報基礎」「健康科学」などの科目により一般教養を身につけ、外国語科目では、英語、フランス語、中国語、ハンゲルから選択できるよう、各科目を配置している。これらの科目を履修して基礎教養を培い、心理学科または地域福祉学科の幅広い専門基礎科目、専門基幹科目、専門関連科目の中から専門分野を絞りこみ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ・卒業研究を通して各自が目指す専門分野へと進むことができるように教育課程を編成している。本学部の学生はこのような教育課程を主体的に選択することにより、高い専門性を有し、豊かな人間性と高い倫理観をもった心理学分野または地域福祉分野の人材を育成している。

このように本学部では、設置目的や理念とカリキュラムの各種カテゴリーやその中に設定された科目とは適切に対応しており、かつバランスよく配置している。また、設置当初より順調に学年進行し、教育目標は達成されている。

(2) 導入教育について

円滑な学士課程への移行に配慮して、心理学科では毎年、入学直後に合宿オリエンテーションを行い、全学生、全教員参加(指導のための上級生を含む)による導入指導を行っている。そのプログラムは、人間関係づくりの要素をもつもので、学生同士がお互いの人間関係を形成し、集団生活に早期になじめるようにプロジェクトアドベンチャー(アドベンチャーカウンセリング)の手法を取り入れたものである。このプログラムは、新入生のニーズや抱えている課題により適合するように年々改良され、より満足度の高いものとなってきている。初年度の基礎演習の授業では、小グループのクラス編成でオムニバス形式で展開され、それぞれの担当指導教員がきめ細かく一人ひとりの学生に目を配り、学修への習熟の度合いをチェックしつつ授業を行っている。その成果は大きく、

学年全体の教育目標達成の第一歩を踏み出すことに役立っている。地域福祉学科においても、学内において、修学へのきめ細かい導入教育や指導が行われている。毎月開催される教授会において両学科の学生の動向は毎回報告され、個々の学生が修学に支障をきたさないよう配慮することで、適切な学生支援体制を構築している。

(3) 組織的な履修指導について

毎年、前期と後期に学生全員を集めて履修の説明を行い、成績表を交付して、修得単位が少ない学生には教員が個別に指導を行っている。学生の動向は毎月の両学科の学科会議および教授会に報告され、欠席が多い学生等については、必要に応じて担当教員や学科主任からコンタクトをとり、対処している。

(4) 年間の履修登録単位数の上限設定について

1年間に履修登録できる単位数については、平成21年度以前は1～3年次は52単位まで、4年生は60単位までであったが、平成21年度より全学年で48単位までと設定した。このことにより、各年度でより適切に単位を取得することとなり、最終年度にまとめて履修しようとするような片寄った履修はなくなった。

(5) 授業評価について

毎年、年2回全授業について統一された項目を用いた授業評価アンケートを実施しており、学生に対しては、このことについて掲示で知らせ、周知徹底している。その結果は各授業担当教員にフィードバックしている。また、報告書を作成して、教職員や学生に公表している。

(6) ファカルティ・ディベロップメントについて

ファカルティ・ディベロップメントについてはFD委員会が設置されており、そこでの審議に基づき、専門家を招いてのFD講演会の実施、授業評価アンケートの実施、学外FD関係研修会への参加、全教員による公開授業の実施等を通して、常時授業改善への取り組みを行っている。

(7) シラバスの書式、授業計画の明示、成績評価基準の明記について

シラバスは、大学のホームページで公開しており、その書式は統一されている。各授業担当者はシラバス作成要領の内規に従ってシラバスを作成している。詳細情報として、授業概要、到達目標、授業計画、関連する授業科目、授業方法、履修および予習・復習についての指示、成績評価の方法と基準、テキストを明記するよう指示されている。したがって、その内容については教員間でほとんど精粗がないといえる。

上述のとおり、授業の計画については、シラバスが公開されている。履修登録の際に、必ずシラバスを見るように指導しており、年間を通じて各学生が計画的に必要な科目をいつどのように履修するかについて計画を立てるのに何ら支障はないといえる。また、成績評価基準は、すべての科目について、シラバスに明記している。

①教育目標

平成16年4月に開設した帝塚山大学現代生活学部は、現代生活や文化に対する確かな認識を基盤として、現代に生きる人々が豊かで健全な生活を送るために必要な知識と技術を探求し、それらを社会に還元できる専門的職業人の養成を目指している。また、現代生活学部各学科の教育目標は、以下の通りである。

(食物栄養学科)

国民の健康に関する諸問題がますます多様化、複雑化する現代社会において、幅広い教養を基礎とする豊かな人間性と高度な専門知識および技術を以て、栄養や健康について提言できる人材を養成する。

(居住空間デザイン学科)

21世紀のより良い生活空間の創造を目指して、生活者の視点から人間生活に関するモノと空間に関する諸問題を包括的、体系的に捉えることの出来る人材を養成するとともに、デザイン教育を重視し、企画力、創造力など、モノづくりに関わる実践的な能力と技術に精通した人材を養成する。

(こども学科)

子育てをめぐる環境の変化について、深く分析するとともに、様々な角度から、子どもについて研究し、子どもたちの健全な成長・発達を支援することのできる人材を養成する。また、保護者と連携して子育てを支援し、地域の子育てネットワークを活性化できる人材を養成する。

②学部の水準による評価

(1) カリキュラムの内容について

本学部のカリキュラムは、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」共通教養科目と、「学部の専攻に係わる専門の学芸を教授する」ための専門科目によって編成しており、学士課程としての各学科のカリキュラムは、それぞれの目標に対応した体系性を有している。

共通教養科目は、人文科学系各分野を扱う「文化と人間」、社会科学系各分野を扱う「社会と人間」、自然科学系各分野を扱う「自然と人間」の3分野の他、総合科目としての「人間論」「人権論」、今日的な社会の要請に対応するための「情報基礎」、講義形式で健康問題を考える「健康科学」で構成している。さらに外国語科目は、「英語」「中国語」「フランス語」「ハンガール」の4ヶ国語を配置、それぞれをⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと学習の習熟度に沿った構成としている。共通教養科目の卒業必要単位数は、教養科目で12単位以上、外国語科目で8単位以上、合計20単位以上としている。本学部では、これらをバランスよく学修させることにより、総合的視野からの判断力と、自主的、総合的、批判的思考力・判断力の育成、さらには豊かな人間性、高い倫理観の涵養を図っている。

専門科目は、各学科とも「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門関連科目」、「専門

研究科目」によって構成している。専門科目の卒業必要単位数は、それぞれ食物栄養学科70単位、居住空間デザイン学科92単位、こども学科80単位である。なお、食物栄養学科では、平成16年度生では80単位としていたが、翌年度から「専門研究科目」を必修科目から選択科目へ変更したことに伴い、70単位とした。

「専門基礎科目」は、専門科目履修の前提となる基礎学力の育成、専門分野履修への動機づけ、さらには専門科目に関する基礎知識を学ぶことを目的として設置している。このうち、「基礎演習」では、学士課程教育への円滑な移行に必要な導入教育を行っており、アカデミックアドバイザーとして専任教員を配置している。また、学生のレポート作成等の授業活動に備えて「日本語表現法」を配置した。さらに、高等学校教育との連携、専門教育履修のための基礎科目として、「基礎生物」、「基礎化学」（以上食物栄養学科）、「基礎数学」（居住空間デザイン学科）、「こども学概論」（こども学科）等を配置している。

「専門基幹科目」と「専門関連科目」は、それぞれ各学科の人材養成目標の達成に必要な必須科目群と、その周辺を構成する分野の科目群として配置している。

食物栄養学科においては、食と栄養に関する高度な知識・技術の修得を目的とする専門科目のうち、主として管理栄養士養成課程に関わる科目群を専門基礎科目として配置し、専門英語、学校栄養教育論、食文化論等を関連科目として配置している。

居住空間デザイン学科においては、1級2級各建築士を目指す学生をはじめとして、総合的に居住空間を設計できる能力を身につけた人材を育成するため、生活文化や芸術から設計・技術にいたるまでの幅広い分野を網羅した基幹科目を配置することによって、卒業後、専門的職業人としての資格が取得できる基準を確保している。また、「専門関連科目」では、デザイン基礎実習科目や、教職関連科目やインターンシップ科目など多様な選択履修ができるようにしている。

こども学科においては、「専門基幹科目」は専門科目の中核として「こども学」の3つの柱となる「こどもの発育」「こどもに伝える文化」「こどもへのかかわり方」の3つの領域によって構成、個々の専門基幹科目は、これら3つの領域の1つに位置づけている。また、「専門関連科目」は、「専門基幹科目」と関連性をもつ福祉や教育・保育そして実習科目からなり、これらに関する最新の学問的成果を学ぶことにより、基幹科目の学びをより豊かにするものと位置づけている。

「専門研究科目」は、各学科とも4年次に配置しており、その内訳は食物栄養学科、居住空間デザイン学科においては、「ゼミナールⅠ」（1単位）、「ゼミナールⅡ」（1単位）、「卒業研究」（8単位）、こども学科においては、「ゼミナールⅠ」（卒業研究）、「ゼミナールⅡ」（卒業研究）、「ゼミナールⅢ」（卒業研究）各2単位である。食物栄養学科においては選択科目、居住空間デザイン学科、こども学科においては必修科目として配置し、学生が4年間の学びの成果を集大成する科目としている。

(2) 適切な履修指導のための制度や工夫

前期授業開講に先立つ4月当初のオリエンテーション期間において、各学生には「履修要項」を配布し、学修、履修に関するガイダンスを実施している。また、後期開講前の9月においても、再度履修ガイダンスを行い、学生への履修指導にあたっている。「履修要項」は、「学修の手引き」、「履修規則」等によって構成されており、学生が学修上におい

て理解しておくべき基本事項を収録している。

さらに、全体に対する履修ガイダンス以外に、個別履修相談も実施、きめ細かな対応を行っている。また、新入生には導入教育として、必修科目の「基礎演習」担当者が個別指導を実施、上級生についても、各アドバイザー（専任教員が各学年10名程度を担当）が登録内容を確認・指導し、万全を期している。

(3) 履修登録単位数

「履修要項」で1学年度に履修できる上限単位数を明示している。平成20年度以前の入学生（食物栄養学科、居住空間デザイン学科）については、1～3年生は52単位、4年生60単位。平成21年度以降の入学生（食物栄養学科、居住空間デザイン学科、こども学科）については、1～3年生は48単位、4年生は58単位である。平成21年度のこども学科設置申請を機に一部改正を行った。

(4) シラバスの作成と活用

各科目の詳細を記した「シラバス」は、Web上で公開しており、学内外から学生に限らず閲覧できる体制をとっている。「シラバス」は、全授業科目共通の様式で記載している。その主な項目は、科目名称、担当者名、単位数、配当年次、選択・必修区分、授業概要、到達目標、授業方法、成績評価の方法と基準、関連する科目、授業計画等々であり、授業の方法、内容を明示している。特に、「授業計画」の欄では、半年間（前後期 Semester 制度を導入している。）の授業計画を明確に記載している。また、「成績評価の方法と基準」の項目において、評価基準を明示し、評価の客観性および厳格性の確保に努めている。

(5) 授業評価

帝塚山大学FD推進室の主催により、前後期各1回（通年2回）、「学生による『授業改善アンケート』」を実施している。この結果を踏まえて、各教員が授業改善の取り組みの方向性を学生に伝えるとともに、FD推進室にもそれを報告することとしている。また、その分析結果については、報告書で公表している。また、FDへの取り組みの一環として、FD推進室で選出した講義の公開授業との検討会（前期）、全教員による公開授業週間（後期）を実施している。